

平成29年度
京都市立嵐山東小学校
学校教育目標

育てよう 子どもの思い・思いやり

学校教育目標の実現に向けての主体者は、本校の全教職員である。

「育てよう」とは、主体者としての責務を自覚し、学校自らがその意思を表明しつつ、保護者や地域社会にも積極的な理解と協力を求めるものである。

「思い」とは、主体的に考え行動する児童の姿であり、自立と自律を包含している。自立は主体的かつ責任ある行動であり、自律は自らの行動や感情を他者意識をもってコントロールし、自らを高め磨き続けることである。

「思いやり」とは、相手の立場や気持ちを積極的に理解しようとする姿勢や態度であり、日常生活のあらゆる事象に対する豊かな想像力でもある。実生活に根ざして考え、より豊かな人間関係を築きながら、自らの課題を解決しようとする行為でもある。

めざす子ども像

自らすすめ、成し遂げる子	＜自主・自律＞
視野を広げ、磨き続ける子	＜関心・探究＞
互いを認め、共に伸びる子	＜人権・共生＞

「自らすすめ、成し遂げる子」は、主体的な自己形成を目指すことであるとともに、自律した行為により、過程（プロセス）の重視だけでなく、「やりきる」ことで結果をも求めるものである。

「視野を広げ、磨き続ける子」は、多様な学習の場を経験することで、感性を高め、豊かな人間関係を構築することで、生涯にわたり学び続ける態度の基盤を培うものである。

「互いを認め、共に伸びる子」は、他者意識（相手意識）をもって、非攻撃的主張性（アーサーティブネス）を育む人権尊重の精神であり、グローバル化・国際化がすすむ現代社会において、必須の要件となるものである。

めざす教職員像

学校と自分にゆるぎない誇りと自信を

教育活動（人づくり）を創造的行為として認識し、その中核である学校と指導の主体である教職員が、誇り（プライド）と自信（カンフィデンス）をもって子ども達と共に充実した教育活動を展開する。そして、専門職（プロ）としての自覚と力量、子どもへの深い愛情、確かな指導力、豊かな社会性や発想力を広げ高める努力でもある。

また、そのような姿勢や態度が私たち教職員のゆるぎない誇りと自信となり、自校に愛着を持ち、児童の自尊感情の育成にも大きく影響を与える。

めざす学校像

京都・嵐山の伝統と文化を受け継ぎ担う嵐山東小学校

京都市は、「文化都市」「国際都市」としての多様な特性をもっている。嵐山東小学校は、その中にあっても、嵐山という際立って自然や歴史的に恵まれた環境にある。地域の伝統や文化の担い手であることを誇りに、国際感覚をもって次代と自らの未来を切り拓く子どもの育成をめざす。

平成29年度の重点項目

- 感性の高揚と国際化を意図した「体験活動」
- 合意形成の過程と成果を重視した「言語活動」
- 自律と貢献を意識した「協働活動」

学校教育目標の実現に向けて、京都市の「学校教育の重点」と本校の実態、これまでの取組の経緯を踏まえ、独自性のある取組を展開する。

■感性の高揚と国際化を意図した「体験活動」

文化芸術・スポーツ等の各分野で活躍する人物を外部講師として招聘し、その業績や生き方に触れることは感性を高め豊かにする。そして、多様な学習の機会や場を通じての体験は、思考と行動に柔軟性と多様性を持たせ、国際的視野を育む基礎となる。

■合意形成の過程と成果を重視した「言語活動」

すべての教科・領域や各行事で、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」に加え、話し合いによる「合意形成の過程を経験させること」を重視した指導を推進するとともに、子どもの姿の変容につながる「自ら学ぶ力」の定着を図る。

■自律と貢献を意識した「協働活動」

学校のきまりや社会の基本的なルールを守る態度は、相手意識（他者意識）と自律した子ども同士の合意形成の過程（プロセス）の学習と経験により培われる。すなわち、集団での活動を通して、感情や情緒のコントロールと自己の果たす役割と責任を自覚することのできる経験の積み重ねにより、社会に通用する正しい判断力や確かな価値観を育む。